

番号	4	
① プロジェクト名称	Project One To Six! ～地域社会の人材育成&農業イノベーション～	
② プロジェクトメンバー(代表のみ)		
バイオ・化学部・応用バイオ学科	松本 恵子	代表
③ 参加学生数(報告時点)		
学部 1～3 年次生	研究室所属学生 (大学院生含む)	外部参加者数
5 名	30 名	10 名
④ 活動報告 (これまでの活動、年度末のまでの活動予定、活動における課題等について書いてください。フォントは 9～11pt以内。行間は適宜。写真や図も O.K)		

**これまでの活動**

以下に活動予定を示す。

- 4月～5月 メンバー募集、スケジューリング、去年の振り返り、連携圃場の選定
- 6月～7月 協力圃場へのフィールドサーバーの設置、データマイニング手法の検討
- 9月～11月 収穫物の品質調査、データマイニングによる篤農技術の抽出・分析
- 12月～2月 とりまとめ (\*いずれかの月に、公開講座「地域における新しい学び」等を開催)

4月～7月には、参加学生は新規メンバーを含めて、①去年の到達点の振り返り、②連携圃場の選定・フィールドサーバの設置を行った。学生は、FSの構造やネットワークについて学習し、新規ほ場の概要・営農方針など、FSの社会実装のための実践的学習を行った。4月には、情報系団体成果発表会も行った。8月には、国際会議 IFAC 5th AGRICONTROL 2016, 2016/08/14-17 で成果を発表した。10月には、日本生物環境工学会 2016 年金沢大会にて、石川県立大圃場に設置したヤーコン用FSについて発表しており、分野を超えた地域との共創活動の幅を広めている。

活動の連携先(協力は場、組織など)は、石川県農業総合支援機構(ぶった農産など)、株式会社六星、石川県立大学(2 件、ヤーコン、トマトハウス)、地域農家(小島さん)などであり、去年に比較し、連携先が大幅に拡大した。成果発表の場も国内学会から国際会議まで増加した。

**年度末までの活動予定**

上記の活動予定に従い、ビックデータとなる農業情報の解析手法の検討や、より耐候性・操作性にすぐれたFSの改良を行う。また、地域特性を踏まえた農村振興に寄与するため、公開講座「農村地域における新しい学び(仮)」を物理プロジェクトと共同で実施する。

**活動における課題等**

①プロジェクトの取材依頼や学会発表・講演など、外部に対する活動の記録(参加者人数記録、写真撮影など)が追いつかず、活動履歴に残しにくい。②学内の他のプロジェクトとの連携が、教員個人レベルにとどまっており、プロジェクトチームとしての連携にま

では至っていない。

